

# ～平成 29 年度 研究発表会における質問事項・コメント等～

## 電子航法研究所の現状と長期ビジョン

研究統括監 小瀬木 滋

### 【ご質問】

ADS-B など、今後航空機で使用する場合、地上システム、及び装備品の開発が求められること  
と思います。(これまで海外メーカーに頼っていたことを今後日本で) その時、産業を上ち上げ  
するための認証システムの構築が必要と伺いました。  
この認証システムの構築に ENRI として、何か試みはありますか。このような取り組みを推進す  
る組織がありましたら、教えてください。是非、参加協力したいです。

### 【回答】

航空関連の認証については、国土交通省航空局が担当する事務ですので、電子航法研究所（以  
下、「ENRI」という）としてお答えは致しかねるところです。

ENRI としては、研究機関としての立ち位置から RTCA や EUROCAE などの標準化機関の活動への  
参加を通して認証の基準となる国際標準などの文書作成に寄与しているところです。具体には、  
標準化機関が技術文書を作成するときに必要となる理論的分析や実験データの提供、試作評価  
などを行ってきています。アビオニクス認証については米国 FAA などが実施してきていま  
すが、TSO などその認証基準については、RTCA など業界標準を作成する標準化機関の文書 MOPS  
などが参照されています。ENRI の活動の現状は、これらを通じた間接的な寄与となっています。  
日本においては、過去に航空機衝突防止装置 TCAS の前身となる BCAS を世界に先駆けて開発し  
たものの、米国の方針とのずれもあつたため FAA の認証が得られず、後に米国の TCAS と合流す  
る形で世に出た経緯もありました(電子情報通信学会通信ソサエティマガジン#18、2011 年秋  
号)。

いずれにせよ、ENRI としては、認証基準の参考文献となる技術基準の策定に必要なデータや作  
業への協力により、国内外の認証体制構築に寄与できるのではと考えています。また、主務省  
である国土交通省の関連活動に協力していくことになると思います。

パイが限られている産業ではありますが、日本企業が世界に打って出るには、世界的に連携し  
た認証に対応できる国内体制が必要であるとの意見もあります。また、この方面の活動のリ  
スクと考えていることは、航空分野の専門家として活動できる人材が量的に不足しております。  
この分野の人材が増加することは好ましいことと考えております。